

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	平成22年1月13日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300573&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>公園・戦没者慰霊碑等がある静かな里山にあり、又人情味ある地域住民との交流が盛んに行なわれている。職員が認知症をよく理解し、利用者中心のぬくもりのあるホームとなっている。自然を生かした取り組みを皆で知恵を生かししながらできる喜びを実感し、利用者のみならずそのご家族、職員とが一つの家族のような雰囲気の中でその人らしく暮らしていただいている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設してから8年が経過し、利用者の介護度が進んで行く中で、従来の支援に加え利用者一人ひとりの心に響くケアを充実させるよう、職員が一体となって取り組んでいる。また、「素敵なお年寄りを見つけよう」という学校の課題に応じて小学生や中学生が来訪し、地域の人々が進んで生花・書道・藍染の指導、紙芝居や踊り等で週1回は訪れ、まさに地域に根ざしたホームの姿である。これからも活気に満ち、和気藹々、笑顔いっぱいの姿が引き継がれる事を確信させる楽しいなホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	よく見える場所に掲示してあり、ミーティングの始めに皆で唱和し又その意味を皆で理解しあい、地域に密着した我ホームの理念をもとに日々の実践につなげている。	平成16年度に職員が覚えやすい言葉で作られた理念「私たちはその人らしさを大切にします。私たちは安心と喜び、優しさ、温もりを大切にします。私たちは地域、家族の結びつきを大切にします」を掲げ、常に理念の具体化を意識して日々のケアに生かそうと努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と一緒に公民館周りの掃除、花植え又地域住民の家に招かれる事等色々な面で地域との交流は盛んに行なっている。昨年新たに地域住民の理解のもと準自治会に加入する事によりさらに地域との交流が深まっている。	昨年、自治会の準会員になり、町の広報が届くようになり公民館も活用でき、一層地域との交流が深まっている。地域のボランティア団体が年末の大掃除に協力してもらえたり、月2回、趣味の活動に参加してもらえることが利用者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前向きに経験、実践を生かし地域に役立つ方針で取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、サービス内容の報告についてメンバーより意見をいただき、良い改善等となっている。又メンバーが変わる事により違った視点からの意見がありサービス向上へとつなげている。	2ヶ月に1度開催され活動報告が行われ出席者からは「良くやっている」との評価が得られている。出席の老人会長の意見で、近く老人会との交流会を準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町村担当者、地域包括センターの皆さんとは常に実情やサービスについて情報や協力依頼等常に良い関係を保てておりそれがより良いサービス向上につながっている。	町担当者が運営推進会議に欠席することもあり、また、町役場への問い合わせに対しても即返答がもらえないこともある。	町との連携を深め、認知症の理解に繋がるような研修や行事などを地域包括支援センターや地域住民を巻き込んで計画するなど工夫されたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	皆が何が身体拘束であるかを十分理解し実践している。玄関の施錠は基本的には行っていないが日によっては御家族、関係者の了解を得て30分程施錠をさせていただく事もある。その際には玄関に施錠のお知らせを掛けている。	身体拘束に関する研修に参加し、その内容は職員間で周知されている。ホーム玄関は日中施錠はされていないが、やむを得ず短時間施錠する場合は、玄関に掲示して知らせるなど対応に努力している。	自己にて体勢を直せないなど利用者一人ひとりの仕草、行動を見過ごす事が、広い意味での拘束に繋がることも意識してケアに当たることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についての研修、勉強会に皆が積極的に参加し利用者の身になった支援を行なっている。一人ひとりの観察と小さなことでも見過ごす事の無いように注意し、防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、皆で勉強をする機会を持つことができた。今の所必要性を感じる御家族は見えないが、必要性を感じる時があれば活用できるような体制ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には納得される説明を十分に行ない、話し易い雰囲気の中で、不安や疑問点を尋ね理解、納得をしていただくようにしている。経済面の事は聞きにくい事ではあるが勇気をだし、後に問題とならば様に丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者・家族とは堅苦しくない、話し易い関係を築くように努力し、それにより利用者・家族の意見を運営に反映する事ができている。	家族会は年4回開催され、家族の参加と協力のもとに行事や外出支援が行われている。各家族との関係も良く「十分してもらっている」との満足の声が多く、要望や意見は出されていない。	ホームとして家族からの意見、要望は貴重な財産と受け止め、どんな些細なことでも話してもらえるよう努力されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を出し合い、良い意見を取り入れ常に職員の意見を尊重している。職員の明るい雰囲気が利用者へ反映しサービスの質の向上につながっている。	毎月の職員ミーティングで日々の気付きやアイデアが活発に出されている。管理者は職員の提案や意見を出来る限り後押しし、良いケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の日々の努力は認めている。働きやすい環境を現状維持でゆきたい。労働時間についてはできるだけ所定労働時間内で終るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修・勉強会に参加、又県社協、グループホーム協議会等の外部の研修にも積極的に参加できる体制ができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会合・町のケア会議等に参加し意見交換を行なうことによりサービス質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に本人第一と考え、要望等に耳を傾け、安心できるよう本人の気持ちと向き合い信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の段階に家族の思い・困っている事などをしっかり聞いている。又その際事業所の経験談等も伝えながら安心感・話し易い雰囲気作りに努め、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括支援センター、居宅介護支援事業所等からも情報をいただき、又家族から今一番困っている事、必用としている事を聞き出す事により適切な支援につなげる事ができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らすという」心がまえで職員は携わっている。ある時は親・嫁・娘・兄弟となり暮らしの中で生かされており、いつも穏やかな良い「家族関係」ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まず家族との絆を一番に考えており、職員も家族との信頼関係を築く事により、職員・本人・家族が一体となり皆で支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流を大切に、その関係が入所後も継続できる支援を行なっている。朝市に出かけ馴染みの人に会う、友人との外食・面会、公民館、イベント、かかりつけ医へ等その他色々な交流が持てるように常に支援を行なっている。	ホームとして積極的に外出支援を行っている。地域性もあり、至るところで馴染みの人との交流が維持されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人ひとりをよく理解する事により、利用者間の調整をその場その場のテクニクで笑いに変え、皆が同じ気持ちで暮らしていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御見舞い・訪問・電話での様子伺い等を行い、これまでの関係を大切に、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしく生活する」を理念にかかげ、本人の思い、意見を受け止めている。認知症を深く理解し思い・希望を受け止めないと不穏につながる行動となりうる。常に本人の得意とする事を導き出し共に喜び合う姿勢を保っている。	利用者からの意向や要望には、出来る事には即対応している。「天気がいいから外に行きたい」「鯛焼きが食べたい」等、意向を言ってもらえる事を職員は喜びに感じ、一緒に楽しんでいく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が本人・家族との信頼関係を、馴染みの関係になる事により、これまでの生活歴・馴染みの暮らし方を把握することができる。又できるだけその馴染みの暮らし方ができるように支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する力を把握し、暮らしの中で全体的に見配りする事は常に申し合わせ実行に移している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人・家族を交え見直ししながら要望を聞いている。活発な意見を出し合う事により、より良い介護計画作成へとつなげることができる。	毎月21日にミーティングが行われ、職員間で全利用者についての話し合いを持っている。また、ケアプラン会議では、毎月3名ずつ、モニタリングの上検討し、利用者や家族の意向・要望を十分に踏まえた内容で介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の何気ない一言・つぶやき等を大切にし個々の記録に残している。又職員間で些細な事でも情報交換し検討する事により介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は進めていない。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしく生活していただく為に社会資源を十分活用している。幸いに町内の身近に色々な社会資源があり気楽に活用が可能であり一人ひとりが豊かに暮らしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望のみならず、本人が今までのかかりつけ医との関係を強く希望されている方も見え、その信頼関係を大切にし、事業者側もかかりつけ医との情報交換を密に行ない、本人の体調管理の支援を行なっている。	今までのかかりつけ医を希望する利用者は4名あり、定期受診は家族が同行している。協力医への受診は5名で、往診も柔軟に対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の医師・看護師に相談し適切な助言をいただいている。又併設の老健施設の看護師に相談、応援をして頂くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院され重症化していない場合は病院に向き、家族・医療機関と情報交換することで早期退院できるように努めている。それにより御家族・本人も安心される事が多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にお話するようにしている。又 殆どの方が「できるだけここに長く居たい」という希望をもってみえるが、事業所のできる事を本人・家族を交え皆で話し合い方針を決めている。	ホームとしては看取り介護は行わない方針である。具体的に文書化はされていないが、入居時に十分説明し、重度化への対応については幾つかの選択肢を提示し、家族と十分相談し、話し合いを持って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにより対応している。定期的な訓練は行っていないが「急変時の対応」の勉強会には参加し急変時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月9日に火災・地震・避難訓練を行っている。又母体の老健施設と共に年2回消防署を交え避難訓練を行っている。地域の協力体制は母体の老健施設と協定している。	毎月決まった日に、火災、地震を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署の指導のもと母体の老人保健施設と合同の訓練が行われている。母体老人保健施設と共に地元農協と協定も結んでいる。	夜間を想定した訓練はまだ行われていない。夜間は母体老人保健施設からも協力は期待できないため、迅速に対応できるよう早期の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者の人格を尊重し、その人の生活歴にあった言葉かけをするように気を配っている。	9名の利用者の中で男性は1名、常に男性を立てる声掛けがされていた。女性は全員包丁を持って食材を切る等の家事に参加し、ひとりの生活者として、尊重された支援が自然に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の望み・思いを表現できない人に自己決定できるように働きかけている。職員の誘導の仕方がうまくいかない場合はバトンタッチし誘導して見るなど工夫をし、少しでも本人の思いを表現できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を押し付けたりせず、その人らしく生活していただけるように、常に希望を聞いている。希望を表現できない人には馴染みの関係で何をしたいかみ取るなど職員側の気遣いの一言でその人らしく一日を過ごしていただけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高齢になっても女性らしを保っていただきたい。鏡をみる、整髪、マニキュア等で気分も変わる。又個々にあった装いが出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみにされている。ホームでの味付け、食材があつているせいか外食されても「ここのご飯が一番良い」と言われる。準備等も座ってできる事や片付けもできる範囲で皆で楽しみながら行なっている。	ホームで炒られた茶や地元の米、利用者が作った食材も多く使われ食事中はもちろん、食事前後もメニューや味付けの話題で楽しい会話が広がっている。食事は利用者、職員全員で和気あいあいと楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を自分たちで行い、一日の摂取カロリーが把握できている。一人ひとりに合った摂取量、水分量が確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔に保っている。自分でできる人、できない人は介助するなど、本人の力に応じた支援を行なっている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し誘導する事により失禁を無くす支援を行なっている。又常に失禁する方でも布パンツ、尿取パットで紙パンツは使用せず、適切なトイレ誘導にて失禁を減らす支援をしている。オムツ使用者は一人も見えず。	オムツの使用者はいない。ホームに来てオムツが取れた利用者もある。足の運動を兼ね1時間おきにトイレへ誘導するなど、個別の排泄介助に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所時便秘薬を使用している方が多いが、食事、適度な活動(運動)、自家製お茶等により投薬せず徐々に自力排便ができるようになってきている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望や時間を合わせる事はできないが、お湯の温度等好みを聞き入れ楽しく入浴していただけるようにしている。	入浴は基本的に午後実施され、週3回行われている。全員の希望には合わせられないが、状況に応じて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠は夜間が中心で気持ちよく眠れるように部屋の温度、明かり等に気を配っている。お昼寝を進めてもされる方は少ないが体調を考慮して時には1.5時間ぐらい休んでいただくようにしている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬は皆が理解している。変更があった場合は申し送りをし皆が把握できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の過ごしてきた道、苦労話などを聞き、皆が語り合えるように職員が調整する。又それにより一人ひとりに合った楽しみごとや気分転換の方法をさぐり張り合いのある生活を送れるように常に努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力があり、日常的にグループ、個別、全員で外出される事が頻繁にある。又本人の希望が強い場合できるだけ希望をかなえて外出できるように努力している。	春、秋の彼岸には墓参り、同窓会への参加、実家の様子を見に行く、近所の友人との外出など天候が許す限り出掛けている。家族の協力も大きな力となっている。	

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族と相談、報告は密に行なっている。管理方法は事業所が預かり。家族と相談のうえ数人の方は少額を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話は自由に使用していただいている。年賀状、書中見舞いなど書いていただくような支援を行なっているが、面会が多い為手紙は書く事が無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には見慣れないものは置かない。又広い窓から山々、積もった雪、野鳥、咲き誇った花などを見る事ができ季節を感じ取る事ができる。出窓には7年間咲いているシクラメンなどの花により心と和む事ができる。広いテラスからは池の鯉、鴨などが見られ楽しみとなっている。	木の温もりがあり、また、天井が高くゆったりとした共用空間である、大きな窓からは、木々の緑や空の色が居ながらにして目に入り、四季を身近に感じることができる。手の届く範囲に雑誌や趣味のものが置かれ、居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し離れ見え隠れする場所に気のあった仲間が座りくつろげるソファがあり、会話が弾み心地よい場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしさを感じさせる馴染みの物(タンス、写真、ソファ、布団等)が持ち込まれて安心して暮らしていただけるようにしている。	居室は十分な広さがあり、位牌を祀っている人、ソファ、筆筒など思い思いの道具が置かれ、落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な生活を送っていただきたい。高齢化に伴いシルバーカーが増え空間が狭くなってきているが、使い慣れた補助具であり自立した生活が遅れている。		